第１回（仮称）千代田区ウォーカブルまちづくり戦略検討会
議事要旨

日時	令和３年 10 月 27 日（水）10 時～12 時
会場	区役所６階　601 会議室
出席	11 名（全員出席／内オンライン出席２名）
議題	（仮称）千代田区ウォーカブルまちづくり戦略について （１）戦略の目的について （２）戦略の構成について （３）戦略における基本方針の考え方について

議事要旨

- 開会
- 委嘱状交付
- 委員自己紹介
- 委員長の選任

⇒委員長は中島委員とする。

資料説明（事務局より）
（１）戦略の目的について

- 資料１－１に基づき、ウォーカブルなまちづくりに関する国の動向、区の動向、（仮称）千代田区ウォーカブルまちづくり戦略策定の目的が説明された。
- 参考資料に基づき、資料１－２の内容を含むウォーカブルなまちづくりの動向について、オブザーバーとして参加した国土交通省職員より説明された。

意見概要（（１）戦略の目的について）

- ウォーカブルの意義について、平時有事のレジリエンス（災害対応力）に資するという観点を加えたほうがよいのではないか。また、そのあり方としてグリーンインフラの観点を加えてよいのではないか。
- 取組みを進めるにあたってのアプローチとして、スマートシティの観点からセンサーやモニタリング装置を積極的に活用し、今後のまちづくりにつなげていけるとよいのではないか。
- 歩行者がいないのに信号で車が止まっている場所などがあり、それが交通渋滞にもつながっている。これらが技術革新で改善され、人感センサーに対応して信号が変わる等、人を中心に考えられたものになるとよいと考えている。今回の戦略が信号制御などの交通のあり方につながるとよい。
- ウォーカブルなまちづくりのアイデアを実現していくことで、交通安全の確保にもつながることが住民に伝わるようにしたらよいのではないか。
- 区民や事業者の方が、ウォーカブルという言葉を単に「歩きやすい」という意味のみで捉えてしまわないかと懸念している。そのため、千代田区ウォーカブルまちづくり戦略では、区民の方や事業者の方

等、ウォーカブルという言葉を受け止める側の多様性に配慮しながら、ウォーカブルが広がりのあるものとして伝わるようにする必要がある。

資料説明（事務局より）
（２）戦略の構成について
（３）戦略における基本方針の考え方について

- 資料２に基づき、（仮称）千代田区ウォーカブルまちづくり戦略の構成（たたき台）と記載内容の方針が説明された。
- 資料３に基づき、まちなかのウォーカブルな要素（例）について説明がなされた。ウォーカブルなまちづくりを推進するにあたっては、『地域の資源（ウォーカブルな要素）』を効果的に活用して、多様な人々の出会い・交流を生み出す「居心地の良い空間」を創出していくことが重要になることから、今後、千代田区に存在する『地域の資源（ウォーカブルな要素）』のポテンシャルを整理していくことを想定している。
- 資料４に基づき、戦略における基本方針の考え方について、現時点で想定する内容について説明された。

意見概要（（２）戦略の構成について（３）戦略における基本方針の考え方について）

- 「戦略」ということから、実現までの時間軸を明確にし、幹線の空間再配分も含むのか等のゴールのイメージについても考えていく必要がある。また、戦略策定後の実践を見据えて、まずウォーカブルな取組を進めていけそうな空間を管理者等の視点から整理していくことも重要ではないか。
- ウォーカブルな要素として、止まり木となるような「座れる場所」「居場所となる場所」が重要である。小さくてもこのような場所ができることで、人が人を呼びウォーカブルになってくると考えられる。このようなヒューマンスケールの要素についても整理していけるとよい。
- 基本方針の考え方に関して、既存の活動を重要な単位としてとらえること、モビリティを効果的に活用してエリア・活動をつなぐということ、活動を単発ではなく継続的に行うことを許容する考え方が重要である。
- 居心地の良い空間を考えたとき、人が多すぎても少なすぎても居心地が悪くなる。そのため、空間と人流のバランスをどうとるかを考える必要がある。
- 日本人の気質から考えて、ウォーカブルな空間を作っただけでは交流にはつながらないと考える。何かの目的があって、適度な人が集まるということが、空間的には快適なのではないかと考える。
- この戦略で何を強く目指すかというところがより明確になり、しっかりイメージできるものになると、方針に基づき官民で進められるようになると考える。
- 住民や事業者等、多様な人がいて、多様な考え方がある中、戦略の先にあるもの、つまりどのように変わるのかというところが見えると、この戦略が分かりやすくなる。
- 人間中心の豊かさというものは、住民、企業で活動している方、事業者で少しずつ異なってくる。また、居心地の良さは、交流だけでなく何もしない自由もあるという議論があった。自分が好きなことができ、他者が好きなことができることも許容できるようになるとよい。
- 要素については、要素単体だけではなく、複数の要素を一体的に考えることが重要である。シーン別

の要素の紹介において、複数の要素を一体的に捉えているが、要素の活用の仕方から分類して、例示すると、より分かりやすくなるのではないか。

- 居心地の良い空間をつくるには、様々なタイプの人がいる中でバランスをとっていく必要がある。
- ウォーカブルの WE DO の W 以外のものができて、その結果 W（歩きたくなる）につながることもあるし、その逆もあり、相互に行き来することが考えられる。
- 千代田区は多様な人たちが集まり、多様な地域がある。その方向性が示せるとよい。
- 昔、一八通りで定期的に行われていた縁日があった。また、秋葉原の歩行者天国は、銀座から秋葉原、上野まで連続して行われていた。様々な苦労があったのだろうが、昔出来たことなのであれば、現在でもできるのではないか。
- 千代田区には 6 万 7 千人の住民がいると同時に、85 万人の昼間人口、300 万人もの来訪者がいるまちでもある。そのような中、多様な人の立場や関わり方があることを踏まえて考えていく必要がある。
- 世代交代で後継者がいないという課題がある中、その文化と担い手の継承とウォーカブルをつなげていく必要がある。

その他

- 資料 5 に基づき、検討のスケジュールが説明された。
- 第 2 回検討会は 11 月 17 日（水）10 時～12 時に開催。

閉会